

# さきたま抄

「頼まれれば深夜だろうと都内板橋の病院から荒川を越えて戸田にまでバイクで往診に行った。防寒のために新聞紙を腹に巻いて」▼戸田中央

医科グループ会長の中村隆俊さん(89)は兄の故哲夫さんを院長として、弟の秀夫さんと兄弟3人で開業した1956年頃の板橋中央医院時代をこう振り返る▼それから6年後、埼玉県南部における病院不足を感じていた隆俊さんは戸田中央病院を開業する。田んぼだらけの当時の戸田では、カエルの鳴き声に悩まされ早々に退院してしまう患者もいたという。そんなスタートだった▼優れた経営を行うとともに地域・社会に貢献した全国の企業経営者を埼玉県が表彰する「平成28年度渋沢栄一賞」の1人に中村さんを選出した▼カエルの声に囲まれて始まった地域医療は今や1都4県に114カ所の関連事業所を展開し、売上高約1千億円に上る国内最大級の医療グループに成長。手術支援ロボット「ダヴィンチ」の県内初導入など、最新鋭機器への投資にも積極的で、その経営手腕を疑う者はいない。一方で戸田市と協働し乳がん撲滅のためのピンクリボン運動にも「執念」を見せ、5割だった受診率を県内トップクラスの52・7割にまで引き上げた▼多くの企業の育成に携わりながら社会事業にも尽力した渋沢翁。その名を冠した賞が、「ふさわしい」と誰もが認める人に贈られる。